

2023年度（令和5年度）
明石市水道事業会計

よくわかる 決算書



【 2024年(令和6年)10月 明石市水道局 】

目次

1 決算書とは？	1
まずは、財務三表それぞれの役割について説明するよ。	2
水道事業の経営とは？	3
2 経営成績はどうだったの？	5
1 水道の給水件数	5
2 水道水の使用量	5
3 令和5年度決算の特徴	5
次に、損益計算書で入ってきたお金(収入)を見てみよう。	7
続いて、損益計算書で使ったお金(支出)を見てみよう。	8
損益計算書の「収入」から「支出」を引いてみよう。	10
「資本的支出」(＝損益計算書には載っていない支出)を見てみよう。	11
「資本的収入」(＝損益計算書には載っていない収入)を見てみよう。	12
「資本的収入」から「資本的支出」を引いてみよう。	13
減価償却費のイメージを例示図で見てみよう。	14
まとめ	16
水道事業会計のしくみ	17
3 「補てん財源」の動きを見てみよう。	19
4 「借入金残高」の動きを見てみよう。	20
5 水道が置かれている現況を見てみよう。	21
水道施設整備費(建設改良費)と給水人口(水道利用者数)の推移	21
明石市水道管の更新に必要となる費用(概算)	22
今後の給水人口の推計	23
水道料金収入の推移	25
水道使用者の1人1日平均使用水量の推移	26
6 財務三表の解説	27
【図解】損益計算書(決算書P5～6)	27
【図解】貸借対照表(決算書P9～11)	28
【図解】キャッシュ・フロー計算書(決算書P12)	29
7 経営指標の解説及び比較	30
1 各種指標の意味及び最新の実績(令和5年度決算数値)(決算書P17～18)	30
2 経営比較分析表(総務省作成・公表資料の引用)	31
よくわかる決算書 用語解説	32

1 決算書とは？

明石市水道事業では公営企業会計を採用しています。

公営企業会計では民間企業のように複式簿記を使って記帳を行います。

その記帳の内容をとりまとめたものが「決算書」になります。

決算書は、4月1日から翌年の3月31日までの1年間の経営成績と財政状態について、損益

計算書（PL）、貸借対照表（BS）、キャッシュ・フロー計算書（CF）（**財務三表**と呼びます。）などの決算書類で表しています。

ただ、この書類は初めて見る人には少し難しい内容です。

そのため、水道使用者の皆さんに決算書に書かれていることを分かりやすくお伝えし、明石市の水道事業がどのような経営状況なのかを少しでも知っていただけるよう決算書の概要版を、この度作成いたしました。



「時のまち明石」
マスコットキャラクター **時のわらし**

決算書を見てみたけど、見慣れない言葉が多くて、よく分からなかったよ～？

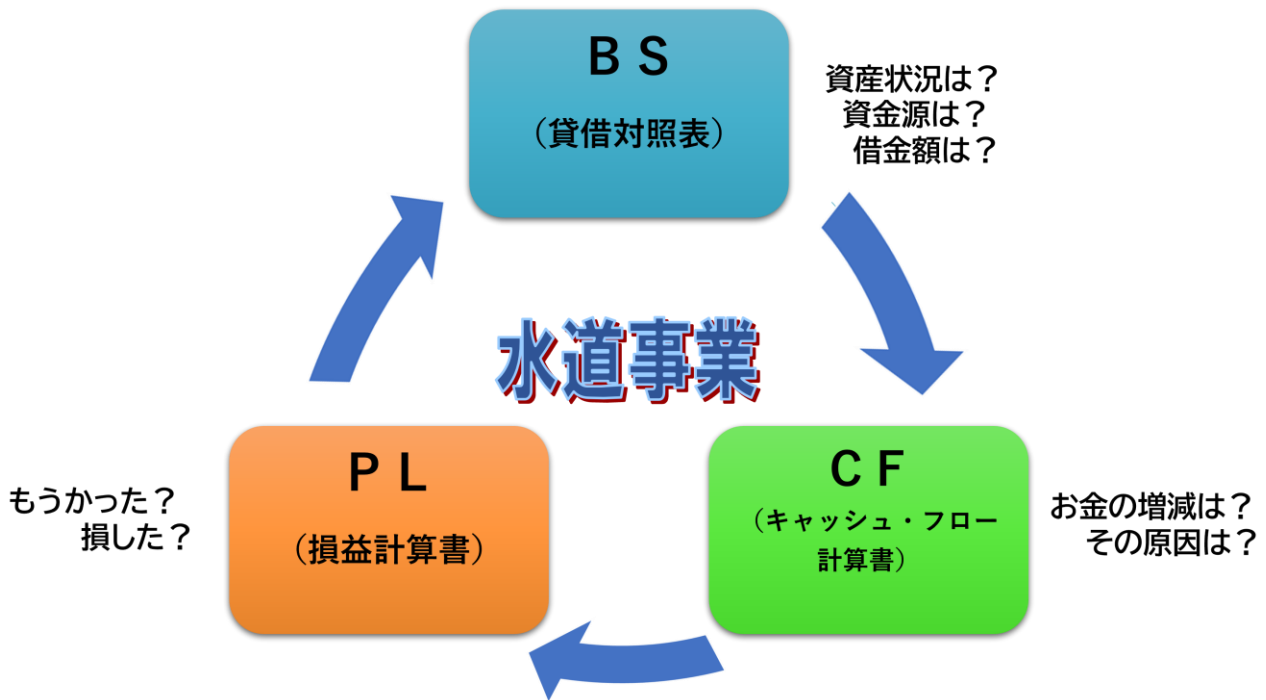
ボクが決算書を分かりやすく説明するよ。



明水(めいすい)くん

明石市水道局のイメージキャラクター

まずは、**財務三表**それぞれの役割について説明するよ。



損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書を合わせて、財務三表と呼ぶんだ。
それぞれ役割があって、さまざまな角度から水道事業の経営状況を把握できるようになっているよ。



経営状況っていうと、やっぱり「もうかったか?」みたいなことなの?

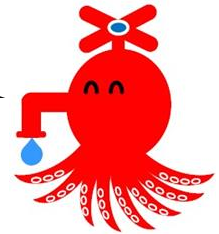
「もうかったか?」も大事な情報だね。
他にも、「浄水場などの資産や、返さなきゃいけないお金である負債（借金など）がどれくらいあるか?」といった情報や、「現金を増やすことができたか?」といった情報も経営状況を見る上で大切なんだ。



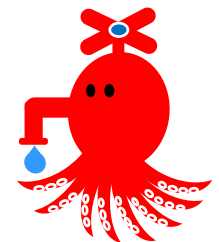


「もうかった」と「現金が増えた」は違う情報なの？

とってもいい質問だね。実はその2つは違う情報なんだ。
この「よくわかる決算書」で、その違いを詳しく説明していくよ。



ここでは、ひとまず財務三表それぞれの役割を知ろう。
「損益計算書」が「もうかったか？」、
「貸借対照表」が「資産、負債、資本の状況がどうなったか？」、
「キャッシュ・フロー計算書」が「現金が増えたか？」
を表す書類なんだ。



水道事業における「もうけ（利益）」は、全て水道施設の更新や借入金（借金）の返済に使われます。

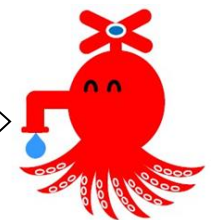
健全な経営を続けていくためには、適切に利益を確保していく必要があります。

水道事業の経営とは？



水道事業は税金で行っているの？

№。原則的に、税金は使っていないんだよ。
井戸や川の水を飲み水にするためにきれいにしたり、皆さんのじゃ口まで飲み水を届ける水道管も必要だったり、水道料金を集めたりと、水道事業にはたくさんのお金がかかるんだよ。そのほぼ全てを水道使用者の皆さんからいただく水道料金でまかなっているんだよ。水がなければ、トイレも使えなくなっちゃうんだ。



明石市の水道事業は、ほぼ全ての事業を、税金ではなく、水道使用者の皆さんからいただいた水道料金でまかなって（経営して）います。この仕組みを「独立採算制」^{どくりつさいさんせい}と言います。

また水道事業の会計は、一般的な行政経費を扱う「一般会計」から独立し、「水道事業会計」^{すいどうじぎょうけい}という特別会計を設けて計算、経理を行っています。

水道事業会計は、地方公営企業法に基づき「収益的収支」^{しゅうえきてきしゅうし}と「資本的収支」^{しほんてきしゅうし}に分けて計算することになっています。

「収益的収支」とは、飲料水を使ったり、水道管を通じて水道水をお届けしたりする事業を運営するための収入と支出のことです。

「資本的収支」とは、浄水場や水道管などの整備や更新のための収入と支出のことです。

「収益的収支」で得た利益を資金として、水道施設の整備を「資本的収支」を通して行っていく
というのが、水道事業経営の基本的な仕組みとなっています。

2 経営成績はどうだったの？

まずは、水道事業の概況を見てみよう。

1 水道の給水件数

項目	令和5年度	令和4年度	前年度からの増減
<small>きゅうすいこすう</small> 給水戸数 (戸)	147,494	146,207	+1,287
<small>きゅうすいじんこう</small> 給水人口 (人)	306,075	305,112	+963

「給水戸数」は、水道の給水契約の対象となっている戸数のことで、前年度から1,287戸増えたよ。

「給水人口」は、水道水を使用している人口のことで、前年度から963人増えたよ。

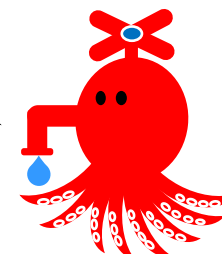


2 水道水の使用量

項目	令和5年度	令和4年度	前年度からの増減
<small>ゆうしゅうすいりょう</small> 有収水量 (m ³)	30,917,409	30,963,888	▲46,479

皆さんが1年間で使った水道の使用量を合計したものを「有収水量」と言うんだ。

使用量が減ったことで、前年度と比べて、46,479 m³(立法メートル)のマイナスになったよ。



3 令和5年度決算の特徴

3-1 水道料金 (給水収益) の増加

(税抜)

項目	令和5年度	令和4年度	前年度からの増減
<small>きゅうすいしゅうえき</small> 水道料金 (給水収益)	49億8,263万円	49億6,989万円	+1,274万円

令和5年度は、家庭用の利用者さんからの水道料金は減ったけど、事業用の利用者さんからの水道料金は増えたので、全体としての水道料金収入は、前年度と比べて、1,274万円のプラスになっているよ。



3-2 委託料の増加

(税抜)

項目	令和5年度	令和4年度	前年度からの増減
いたくりょう 委託料	11億7,104万円	10億8,571万円	+8,533万円

最近の物価上昇などの影響を受けて、委託料の支払額が、前年度と比べて、8,533万円増えたよ。

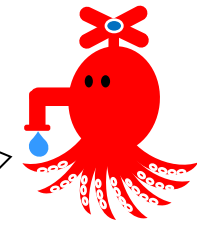


3-3 純利益の減少

(税抜)

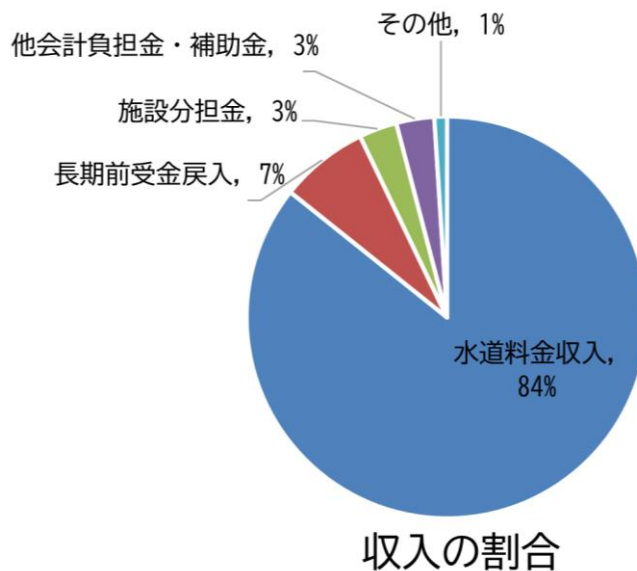
項目	令和5年度	令和4年度	前年度からの増減
じゅんりえき どうねんどじゅんりえき 純利益(当年度純利益)	4億1,574万円	4億6,319万円	▲4,745万円

水道事業の1年間のもうけを「純利益」と言うんだ。前年度と比べて、4,745万円減っているんだよ。
令和5年度は、水道料金の収入が増えた一方で、委託料などの水道事業運営にかかる支払いがそれ以上に増えたことで、利益が減ったよ。

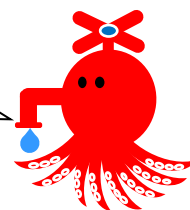


次に、損益計算書で入ってきたお金(収入)を見てみよう。

収入 (損益計算書)	(税抜)
内 容	金額 (円)
すいどうりょうきんしゅうにゆう 水道料金 収入	4,982,634,015
ちようきまえうけきんれいにゆう 長期前受金戻入	433,569,476
しせつぶんたんきん 施設分担金	195,112,500
たかいけいふたんきん ほじょきん 他会計負担金・補助金	226,618,172
その他	52,039,494
合 計	5,889,973,657



水道事業は、皆さんからいただく「水道料金収入(給水収益)」で経営しているんだよ。



あれ？
でも…「収入」には、「水道料金収入」のほかに、「施設分担金」や「他会計負担金・補助金」、「長期前受金戻入」ってあるね…。これは何？

よく気が付いたね。

「施設分担金」は新たな水道使用者に、水道を新たに給水するために必要となる施設整備費用の一部を負担してもらったものだよ。

次に「他会計負担金・補助金」は、本来、明石市（水道事業は明石市から独立しているよ。）や下水道事業に責任のある業務を水道事業が代わりに行ったときに、その分の費用を埋め合わせてもらったものだよ。

例えば、消火栓を修繕する費用や、下水道使用料を徴収する費用のことなんだ。

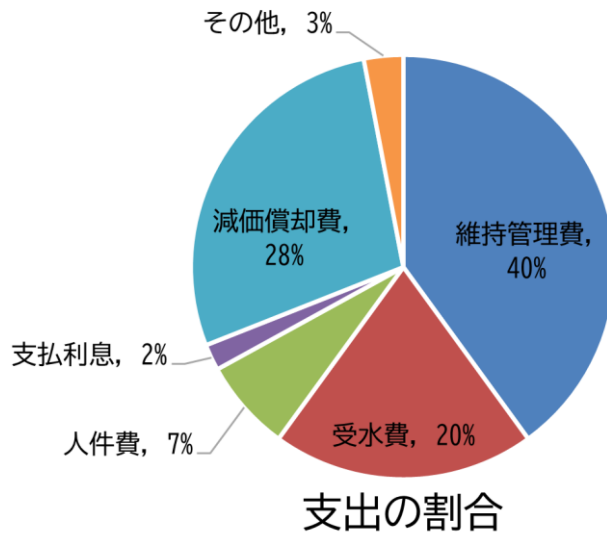
「長期前受金戻入」は難しいから、もう少しあとで説明するね。



続いて、損益計算書で使ったお金(支出)を見てみよう。

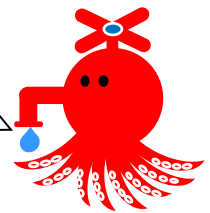
支出（損益計算書） （税抜）

内 容	金額（円）
いじかんりひ 維持管理費	2,148,512,852
じゆすいひ 受水費	1,102,385,712
じんけんひ 人件費	393,368,805
しはらいりそく 支払利息	113,458,817
げんかしようきやくひ 減価償却費	1,557,051,634
その他	159,460,331
合 計	5,474,238,151



「維持管理費」って何なの？
また「受水費」って何なの？

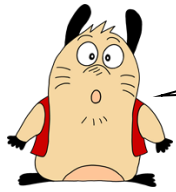
川の水や地下水をきれいにする浄水場や、皆さんの家まで水道水を運ぶためにいったん貯めておく配水場の電気料金や薬品費、業務委託費や、水道施設の修繕費などが「維持管理費」に含まれているよ。また明石市で製造した水道水だけでは足りない分を兵庫県から購入しているんだけど、その水道水の購入費用が「受水費」なんだよ。



あと「人件費」って何なの？

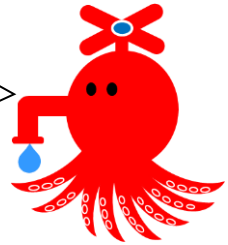
水道の仕事をしている職員の給料や通勤手当、健康保険料などが「人件費」に含まれているよ。





それじゃあ「支払利息」って何の利息なの？

水道施設を整備するときなどに借り入れたお金の利息になるんだけど、毎年1億円を超える額になっているんだよ。



もう1つ残っている「減価償却費」って？

「減価償却費」は「長期前受金戻入」とセットで考えると分かりやすいから、あとでまとめて説明するね。
まずは、損益計算書から分かることを次のページで説明するよ。



損益計算書の「収入」から「支出」を引いてみよう。

収入－支出＝純利益（純損失）

+415,735,506円

約4億2千万円のプラスだね。

「収入」から「支出」を引いたものがプラスだと「純利益」、マイナスだと「純損失」と呼ぶんだよ。「黒字」、「赤字」と言った方が分かりやすいかな？

損益計算書から分かることは、水道事業が黒字だったか、赤字だったかってことなんだ。



約4億2千万円も黒字なら、水道事業は安心だね。

そのとおり。…と言いたいところなんだけど……。

実は水道事業には損益計算書に載っていない「支出」があるんだよ。



損益計算書には、その1年間にかかった費用を載せるって決まりがあるんだ。

たとえその年に支払った施設の整備費用であっても、整備した施設は、その年だけじゃなくて、施設がある限り、ずっと使えるよね。だから、その1年の間にかかった費用とは言えないから損益計算書の「支出」には載っていないんだ。

ちなみに、この損益計算書には載っていない「支出」のことを、

しほんてきししゆつ
「資本的支出」って呼ぶんだよ。



急に難しくなったな…。

とにかく、施設の整備はその年のことだけじゃないから、損益計算書には載っていないんだね。

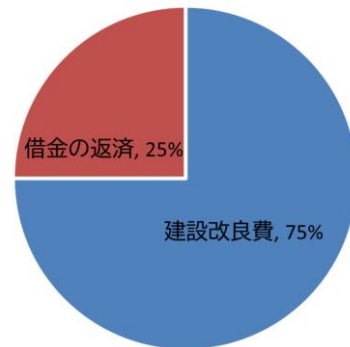
じゃあ、結局今年は施設の整備にどれだけお金を使ったの？

次のページで「資本的支出」について説明するね。



「資本的支出」(=損益計算書には載っていない支出)を見てみよう。

資本的支出 (税抜)	
内容	金額 (円)
けんせつかいりょうひ 建設改良費	1,998,905,045
しゃっきん へんさい 借金の返済	658,872,205
合計	2,657,777,250



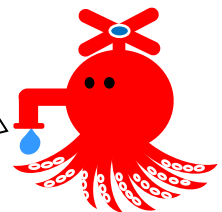
資本的支出の割合

「建設改良費」は施設の整備費用のことだよ。
施設の整備には約20億円かかっているんだ。
あとは、施設を整備する時に借りた借金を返すお金も損益計算書には載っていないよ。



損益計算書に載っていない「支出」が約27億円もあるんだね…。
損益計算書の「収入」は維持管理費などで使ってしまった全然足りない気がするけど、ほかにも「収入」があったりするの…？

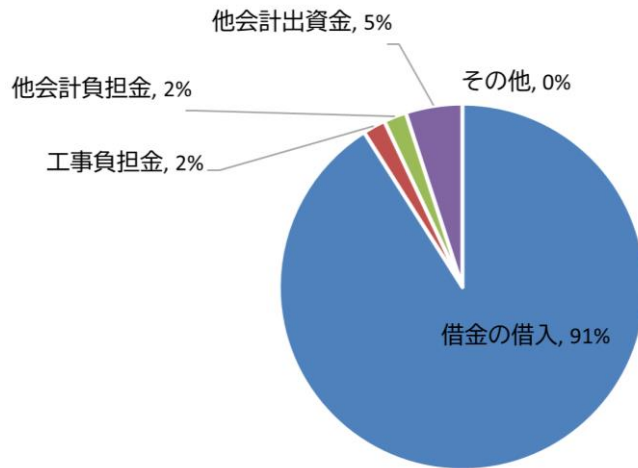
そうなんだ。
施設の整備費用が損益計算書の「支出」に載っていないように、損益計算書に載っていない「収入」もあるんだよ。
施設整備のために借りたり、もらったりするお金なんだけど、これを
しほんてきしゅうにゅう
「資本的収入」って呼んでいるんだ。
「資本的収入」について、次のページで説明するね。



「資本的収入」(=損益計算書には載っていない収入)を見てみよう。

資本的収入 (税抜)

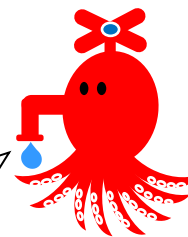
内容	金額 (円)
しゃっきん かりいれ 借金の借入	1,325,100,000
こうじふたんきん 工事負担金	35,366,000
たかいけいふたんきん 他会計負担金	28,952,000
たかいけいしゅっしきん 他会計出資金	71,514,850
その他	1,984,069
合計	1,462,916,919



借金の借り入れが大きいことが分かるね。

「工事負担金」は、大規模な住宅開発に係る水道施設の拡張や改良のための費用を開発事業者からお支払いいただく負担金がほとんどなんだ。

「他会計負担金」は、火災の際、消火活動に使用する消火栓設置費用を、明石市からもらっているお金だよ。



明石市からもらっている負担金には、税金が投入されているってことなの？

するどいね。その通り。

「他会計負担金」は税金だよ。火災への対応のための消火栓を設置することは、市として取り組むべき仕事なんだ。

このように、本来市として取り組む必要がある仕事を、水道が代わりに行うときには、それにかかったお金について、水道料金収入ではなく、税金をもらうことになるんだよ。



じゃあ最後に、損益計算書で純利益（純損失）を計算したように、「資本的収入」から「資本的支出」を引いてみよう。



「資本的収入」から「資本的支出」を引いてみよう。

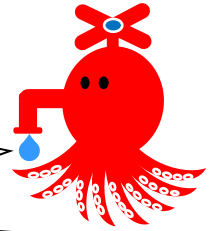
資本的収入－資本的支出（施設の整備）

▲1,194,860,331円



約11億9千万円の赤字？
いったいどうやって施設の整備をしているの…？

この赤字分も損益計算書の「収入」で補^{おぎな}わなくちゃいけないんだ。



損益計算書の「収入」…？
なるほど。でも、損益計算書の「収入」は、「維持管理費」や「減価償却費」などで使ってしまったって「純利益」が約4億2千万円しか余っていないよね？

すごい。よく覚えているね。
水道料金や長期前受金戻入などの収入から、維持管理費や減価償却費などの支出を差し引いた残りが「純利益」だったね。
ここで問題なのが、「減価償却費」と「長期前受金戻入」なんだ。
その年に支払った施設の整備費用であっても、整備した施設は、その年だけじゃなく施設がある限りずっと使えるから、損益計算書の支出には載せないんだよね。
その代わりに、整備費用を施設が使える年数で割ることで、その1年の間にかかった費用として計算するんだ。これが「減価償却費」だよ。
「長期前受金戻入」は、「減価償却費」の収入バージョンで、施設整備の際にもらった負担金や補助金などを、その施設が使える年数で割って、1年分の収入を計算したものなんだよ。

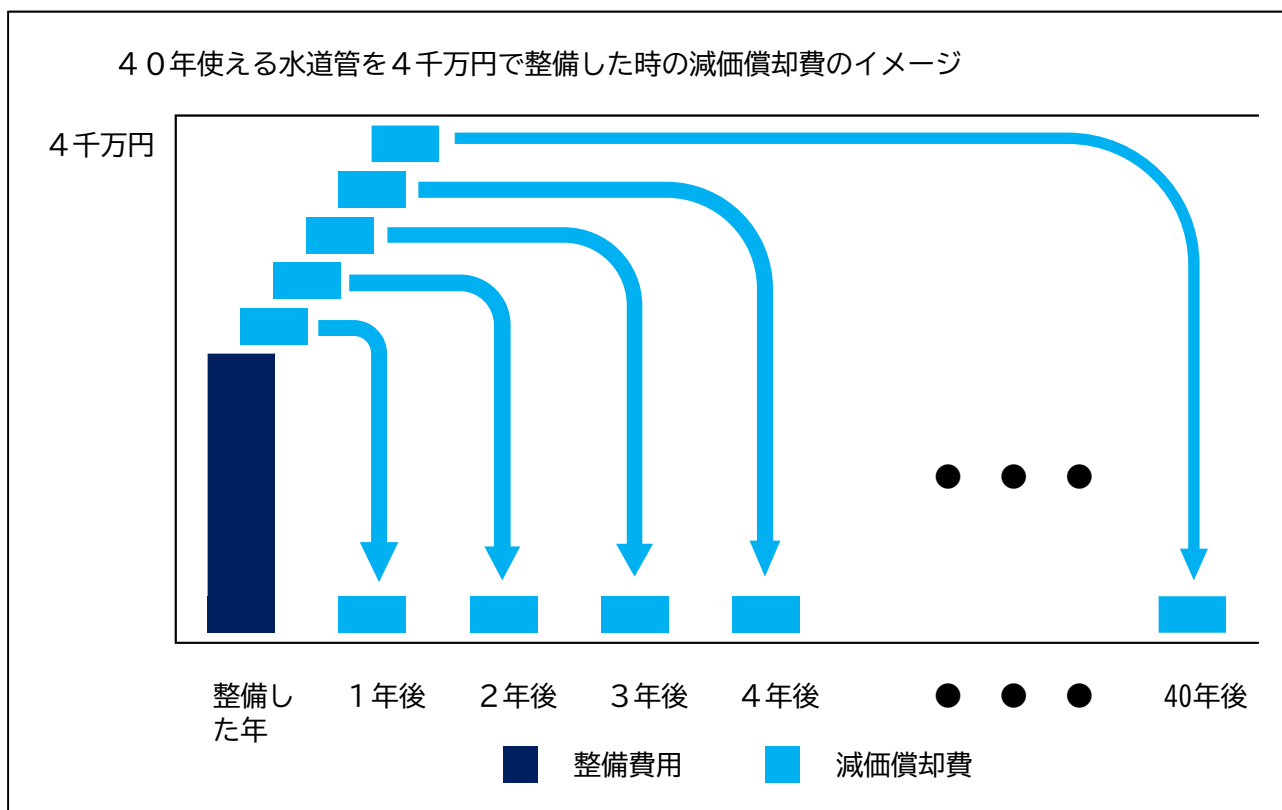


なんだか言葉だけじゃ、なかなか理解できないなあ……。

そうだね。言葉で説明するのがとっても難しいから、次のページで、図を使って説明するね。



減価償却費のイメージを例示図で見てみよう。

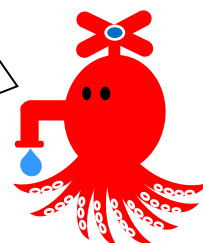


整備費用4千万円を使える年数40年で割った100万円が毎年の減価償却費になっていることが分かるね。
長期前受金戻入も、「支出」か「収入」かだけの違いで、考え方は同じだよ。



う〜ん…。難しいけど、なんとなく分かったぞ。
でもこれが、「資本的収入－資本的支出」の赤字と、どんな関係があるの？

また少しだけ難しい話になってしまうけど、「減価償却費」はその年にお金が使われていない費用なんだ。
上の図で言うと、整備した年に4千万円は支払い済みだから、1年後以降の100万円はお金が出ていかないんだよ。
だから、損益計算書の純利益を考える時には水道料金などの収入から減価償却費を引いたけど、実際にはその分のお金が手元に残っているままなんだ。





「減価償却費」は、むかしに支払った「整備費用」のうちの今年度分を計上しているだけだから、実際にはお金の支払いは無いんだね。だからこのお金は、「資本的収入－資本的支出」の赤字を埋めるために使えるってことなのかな？

その通り。

逆に「長期前受金戻入」は、むかしにもらった「負担金」や「補助金」のうちの今年度分を計上しているだけだから、お金の動きを考えるとときには、引かなくちゃいけないんだ。



まとめ

ここまでの話をまとめてみよう。

「資本的収入－資本的支出」の赤字額は約11億9千万円。

損益計算書上の純利益（黒字額）は約4億2千万円。

損益計算書で支出に計上したけど手元に残っているお金（減価償却費）は約15億6千万円。

損益計算書で収入に計上したけど使えないお金（長期前受金戻入）は約4億3千万円。

全て足し引きすると下の計算式のようなよ。



資本的収入－資本的支出		▲1,194,860,331円
損益計算書上の純利益（黒字額）	+	415,735,506円
減価償却費	+	1,557,051,634円
長期前受金戻入分	▲	433,569,476円
収支額の調整（加減算）後		344,357,333円



計算結果がプラスってことは、「資本的収入－資本的支出」の赤字分を補うことができたんだね。

そうだね。そして今年は約3億4千万円、来年以降に使うためのお金が、手元に残ったんだ。

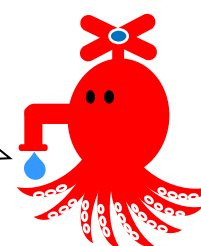
このお金は「^ほ補てん^{ざいげん}財源」と呼ばれているよ。

「補てん財源」は、今後の水道施設の整備や、赤字が出た時の補てんに使えるお金になるんだよ。

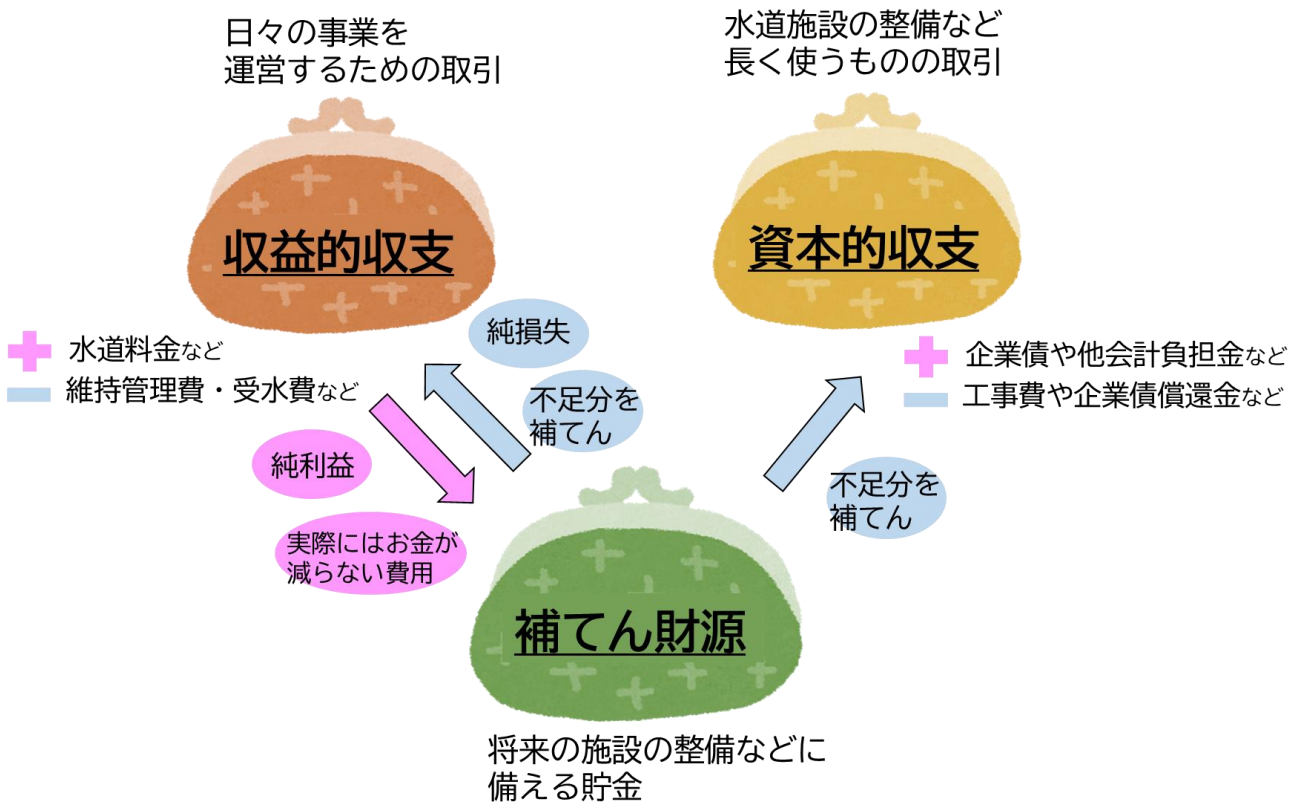


損益計算書で黒字が出ているから安心してわけじゃなくて、「資本的収入」と「資本的支出」の結果も見ないといけないんだね。

その通り。この「補てん財源」と今まで見てきた「収益的収支」「資本的収支」の3つから水道事業会計が成り立っているよ。もう少し詳しく水道事業会計のしくみを見てみよう。



水道事業会計のしくみ



この図を見ると、水道事業会計には3つのお財布があることが分かるよ。

この図でポイントとなるのは、水道事業では、収益的収支で得たお金を使って、水道施設の整備を行っているということなんだよ。



水道事業会計では、1年ごとに「収益的収支」と「資本的収支」の2つのお財布の中身を空にする必要があるんだ。前年度までの「収益的収支」で得た純利益や実際にはお金が減らない費用は「補てん財源」のお財布に貯めることになるよ。

ところで、実際にはお金が減らない費用っていうのは、その年にお金が使われていない費用って言い換えることができるんだけど、これは今まで出てきた費用の中で何にあたるか分かるかな？





今までに出てきた費用ということは・・・
「減価償却費」だね。

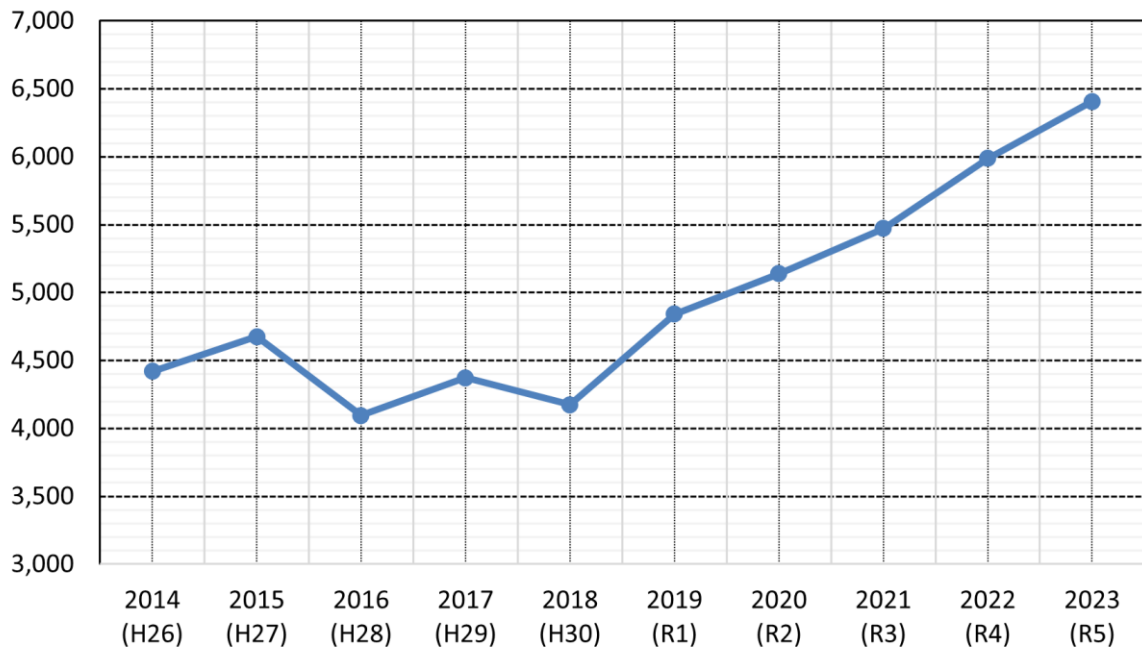
よく分かったね。純利益や減価償却費など実際にはお金が減らない費用は「補てん財源」としてお財布に貯められて、「収益的収支」「資本的収支」の2つのお財布の中身に不足が生じたら、ここから不足分を補てんすることになるよ。



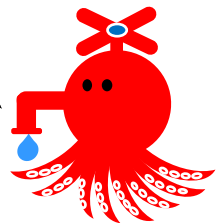
「資本的収支」の不足分を補てんできるように、「収益的収支」のお財布から「補てん財源」のお財布に確実にお金を貯められることが重要なだね。
「補てん財源」って今どれくらいあるのか知りたいな？

3 「補てん財源」の動きを見てみよう。

年度末補てん財源残高の推移(百万円)

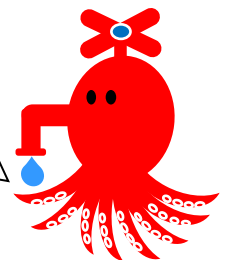


「補てん財源」を、平成26年以降の動きで見ると、増える傾向にあるよ。



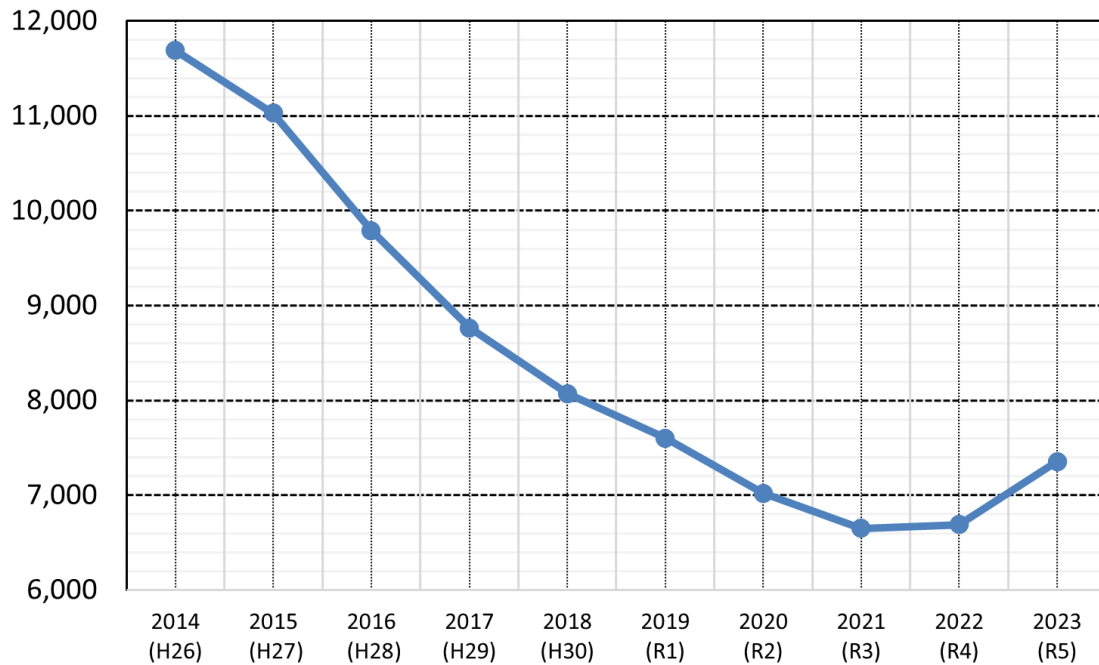
今は64億円ぐらい「補てん財源」があるんだね。
これが多いのか少ないのか、桁が大きすぎて分からないよ…。

さっき、「補てん財源」は今後の水道施設の整備や赤字が出た時の補てんに使えるお金と言ったんだけど、まさに水道事業は、これから水道施設の整備をしていかないといけない状況なんだよ。
その費用を支払うための手段として、「補てん財源」のほかに令和元年度から「借入金」を活用しているよ。「借入金」が今どれくらいあるのか見てみよう。

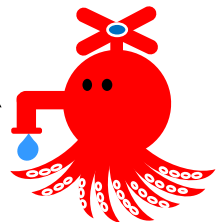


4 「借入金残高」の動きを見てみよう。

年度末借入金残高の推移(百万円)

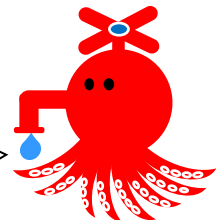


「借入金」を、平成26年以降の動きで見ると、令和3年度まで減少し、その後は増加しているね。今は「借入金」が74億円ぐらいあるよ。



令和3年度以降は増えているんだね。
これからも、「借入金」を活用していく予定なの？

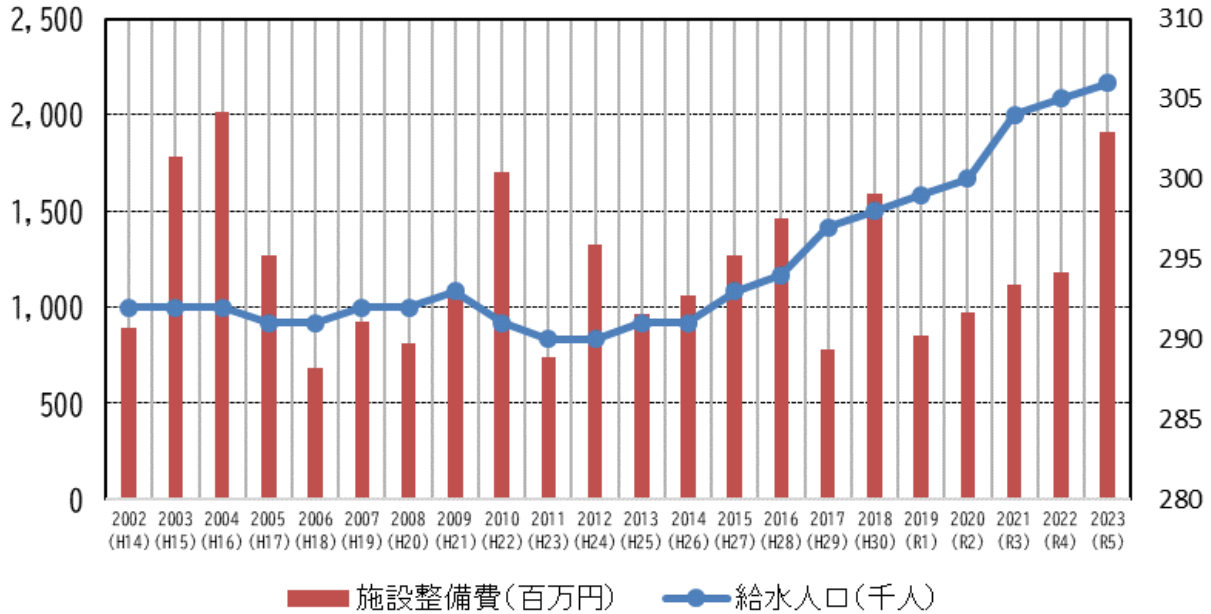
令和6年度以降も、水道施設の整備費を支払うために、「借入金」を活用していく予定だよ。
水道事業が置かれている現況を見てみよう。



5 水道が置かれている現況を見てみよう。

水道施設整備費(建設改良費)と給水人口(水道使用者数)の推移

水道施設整備費と給水人口の推移(震災後)



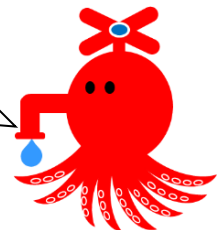
明石市内には、約900kmもの水道管や、3か所の浄水場及び配水場、2か所の貯水池などの水道施設があるよ。

その中には水道事業の拡張に伴って整備してきた古い施設がたくさんあって、それらの施設は整備して終わりじゃなくて、古いまま放置すると水道管の破裂みたいな事故につながるから、改築や更新が必要なんだ。

それら古い施設の改築や更新をするには、たくさんのお金が必要になるんだ。



水道水を家庭まで届ける水道管を、それぞれの耐用年数（一般的に使用できる寿命年数のこと）が来るごとに新しくしていく場合、仮に現在の物価水準ならどうなるか、見てみよう。



明石市水道管の更新に必要となる費用(概算)

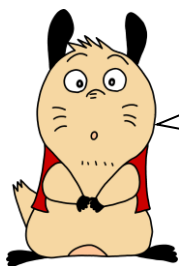
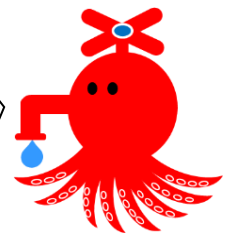
約900km
(およそ西明石駅から福島駅までの距離)



すべて更新に係る費用；約2,250億円(※)

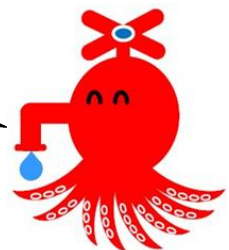
(※) 水道管の更新費用は1kmあたり約2.5億円(令和5年度の単価等による)

最近、原材料価格や作業人件費などが年々増えていっているの、実際には、もっと多額の費用がかかることが想定されるんだよ。
また最新の水道管は、約100年間使用可能とされているから、明石市全体の約900kmから逆算すると、将来的な目標として、1年間で約9kmの更新が必要となるんだよ。
その将来的な目標である9kmの更新を実現するためには、単純計算で、毎年度の水道管更新費用が、約22.5億円必要となるんだよ。



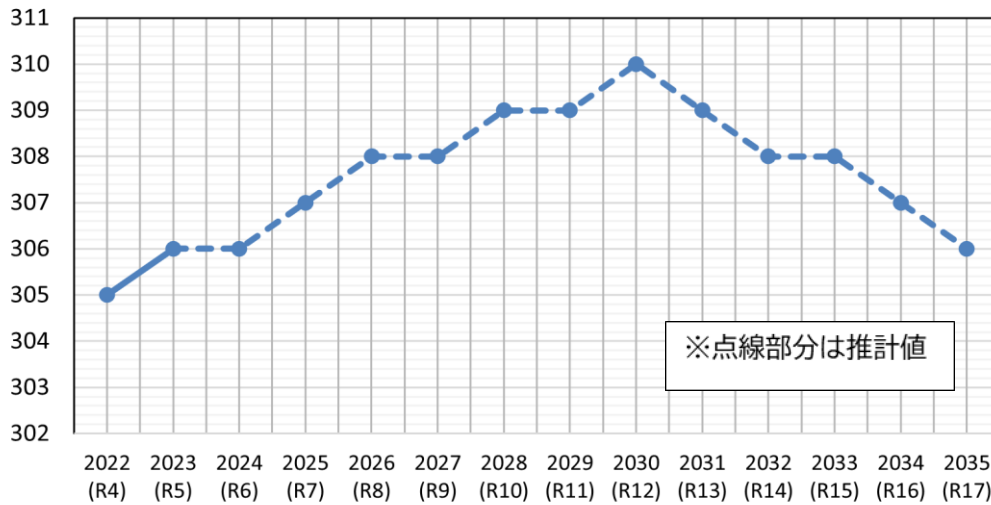
施設は整備して終わりじゃなくて、ずっと使えるように新しくしていかないといけないんだね。

今後の明石市の推計給水人口(水道を使うであろう人の数)を見てみよう。

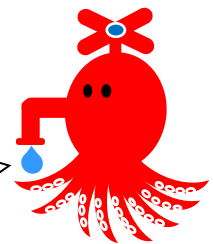


今後の給水人口の推計

明石市の推計給水人口(千人)



明石市の給水人口は令和12年まではゆるやかに増加して、その後はゆるやかに減少していくと見込まれるよ。
給水人口が減少するということは、水道を使う人が減ってしまうということだから、水道料金の収入が減ることになるんだよ。



それって大変なことじゃない。
水道事業はどうなるの？

問題が山積みだけど、手遅れにならないように、長期的な視点に立って、将来を見据える必要があるんだ。

水道は皆さんの生活に最も身近で重要なライフラインだから、明石市水道局では、これからも安定して、水をお届けするために、『安全・安心・安定』でおいしい水の供給をめざして～未来へつなげる信頼の

ライフライン～』を基本理念とする「あかしすいどうじぎょうけいせいせんりやく明石市水道事業経営戦略」を平成28年度に策定したよ。

その理念の実現に向けて、長期的な視野に立った効率的な水道施設の改築・更新計画を絶えず考えているんだ。

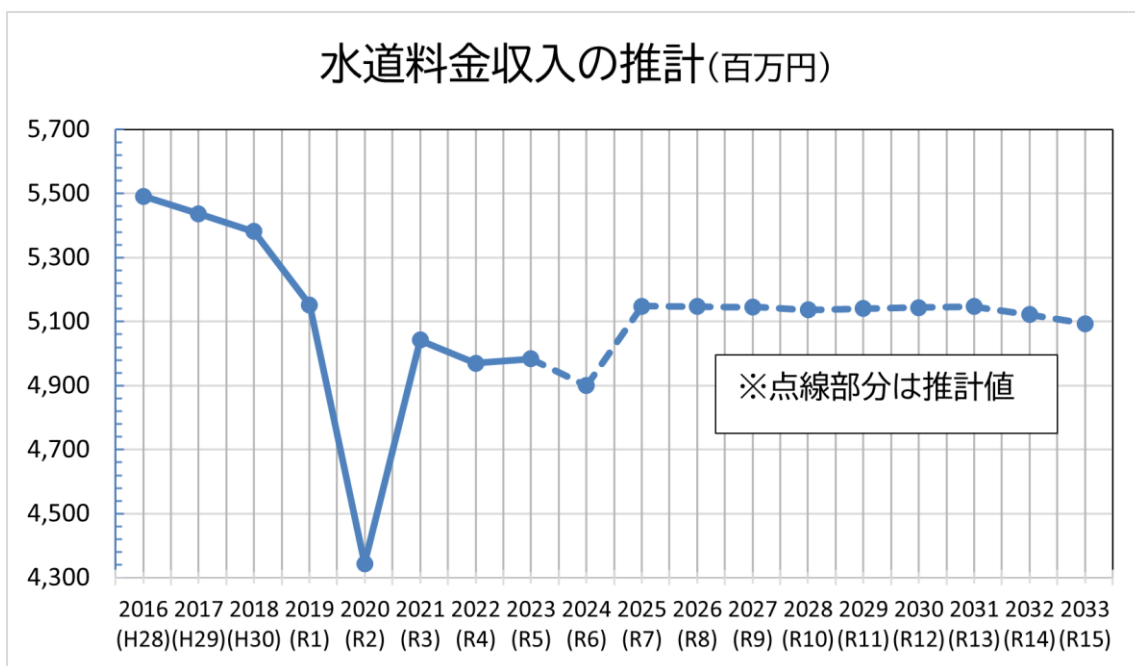
そして将来の補てん財源の残高がどうなるのかを検討して、手遅れになる前に、次の手が打てるようにしていくよ。



次に、水道施設の維持管理や、古くなった施設の更新に使う
お金の大部分を占める水道料金収入が、これからどうなって
いくかについて見てみよう。



水道料金収入の推移

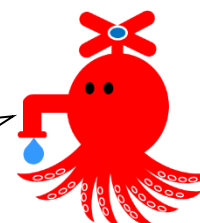


節水意識の高まりや、節水機器の普及・機能向上などによる使用水量の減少で、水道料金の収入は年々減る傾向にあるんだ。今後、人口推移も減少に転じれば、水道料金収入がもっと減っていくことが想定されるよ。

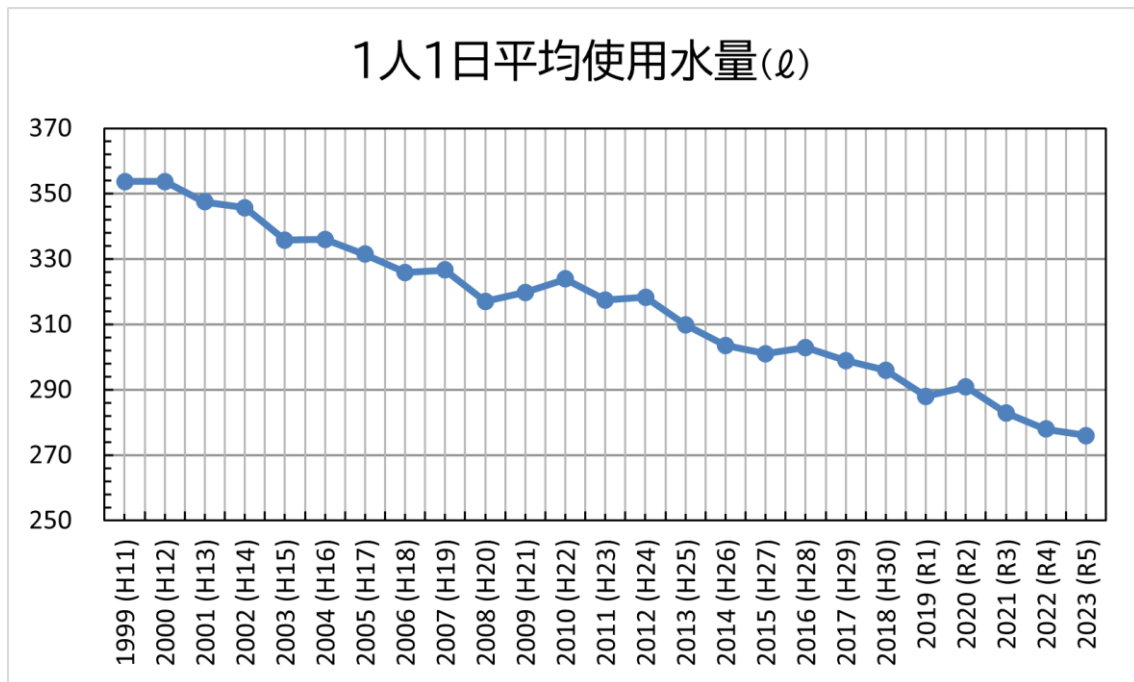


実際に、水道を使用する皆さんが普段使う水道使用量は、どのくらい減ってきているの？

それは、水道使用者の1人1日あたりの使用水量の推移を、グラフに示しているから、見てみよう。



水道使用者の1人1日平均使用水量の推移



一貫して減少傾向が続いているね。
 施設整備など、やらなきゃいけないことがあるのに、収入が減る……。
 水道事業はどうなるの？

水道料金収入が減って、施設整備を進めづらくなると、古い水道管がさらに増えていくおそれがあるね。
 でも大丈夫だよ。
 これから、将来をしっかりと見据えた計画を立てて、手遅れになる前に、必要な手立てを講じていくよ。



水道は生活に最も身近で重要なライフラインだから、ずっと水道が使えるように全員で考える必要があるんだね。

6 財務三表の解説

【図解】損益計算書(決算書P5～6)

☆損益計算書とは？

損益計算書は、ある一定期間における企業の経営成績を明らかにするため、その期間中に得たすべての収益、これに対応するすべての費用、最終的な損益を記載する報告書です。

☆損益計算書から分かること

損益計算書からは、どのような経営活動によって、どれだけの経営成績を上げたかを知り、それに基づいて過去の経営を分析し、また、将来の方針を立てることができます。



3つの方法で損益を把握します
 $\text{損益} = \text{収益} - \text{費用}$



プラスなら利益が出ている。
 マイナスなら損失が出ている…



☆注目のポイント

①営業損失が発生

本業による損益が分かる。
 水道事業の本業は、きれいな水を作って、みなさんにお届けすることです。水をきれいにする費用や、みなさんからいただいた水道料金収入等の、主たる営業活動の結果を表しています。

②経常利益を確保

経常活動から生じた損益が分かる。
 本業に関する損益に加えて、国や県の補助金、一般会計からの繰入金(税金等)による収入や、借入金利息の支払い等の資金調達等に関する損益の結果を示しています。

③当年度純利益を確保

最終的な損益が分かる。
 1年間のすべての損益の結果を示しています。

令和5年度明石市水道事業損益計算書			
(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)			
(税抜き)			
1	営業収益	円	円
(1)	給水収益	4,982,634,015	
(2)	受託工事収益	39,179,691	
(3)	その他営業収益	189,051,891	5,210,865,597 (ア)
2	営業費用		
(1)	原水及び浄水費	2,362,802,521	
(2)	配水及び給水費	854,107,671	
(3)	受託工事費	36,627,321	
(4)	業務費	293,041,324	
(5)	総係費	174,314,532	
(6)	減価償却費	1,557,051,634	
(7)	資産減耗費	79,308,477	5,357,253,480 (イ)
	営業損失		146,387,883 (ウ)=(ア)-(イ)
3	営業外収益		
(1)	受取利息	366,228	
(2)	他会計補助金	45,454,481	
(3)	長期前受金戻入	433,569,476	
(4)	雑収益	199,570,097	678,960,282 (エ)
4	営業外費用		
(1)	支払利息及び企業債取扱諸費	113,458,817	
(2)	雑支出	336,732	113,795,549 (オ)
	経常利益		418,776,850 (カ)=(エ)-(オ)
5	特別利益		
(1)	固定資産売却益	6,531	
(2)	過年度損益修正益	141,247	147,778 (ク)
6	特別損失		
(1)	過年度損益修正損	3,189,122	3,189,122 (ケ) △ 3,041,344 (コ)=(ク)-(ケ)
	当年度純利益		415,735,506 (サ)=(カ)+(コ)
	前年度繰越利益剰余金		349,869,168
	その他未処分利益剰余金変動額		436,240,000
	当年度未処分利益剰余金		1,201,844,674

【図解】貸借対照表(決算書P9～11)

☆貸借対照表とは？

貸借対照表は、年度末時点で企業が所有しているすべての資産、負債及び資本を表示する報告書です。

☆貸借対照表から分かること

表の左側【資産の部】からは、企業が事業を行うために所有している資産の残高を知ることができます。
表の右側【負債の部】及び【資本の部】からは、資産を取得するためにどのように資金を集めたかを知ることができます。

資産は、性質によって「固定資産」と「流動資産」に分かれています。
区分の仕方は、1年間のうちに現金化できるものを「流動資産」、できないものを「固定資産」としています。
この区分のルールを「ファンイヤールール」と呼びます。

☆注目ポイント

①流動比率(%) = 流動資産 ÷ 流動負債 × 100 = 411.7 (%)

すぐに支払わなければならないお金(流動負債)を、すぐに支払えるか(現金等の流動資産がどれくらいあるか)を表します。
《参考；前年度 = 364.3 (%)》
200%以上が理想的で、指標が高いほど経営が安定していると言えます。

《参考；R04決算類似団体平均値 = 228.9 (%)》

②有形固定資産減価償却率(%) = 有形固定資産減価償却累計額 ÷ 有形固定資産のうち償却対象資産 × 100 = 63.8 (%)

《参考；前年度 = 63.5 (%)》
有形固定資産の減価償却がどの程度進んでいるか(その資産をどれくらいの期間使っているか)を表します。
指標が高いほど資産の老朽度合いが高いと言えます。
《参考；R04決算類似団体平均値 = 52.6 (%)》

指標を前年度や他の団体と比べることで、現在の経営状況を把握することができるんだね。



令和5年度明石市水道事業貸借対照表			
(2024年(令和6年)3月31日)			
【勘定式】		(単位：円)	
資 産 の 部		負 債 ・ 資 本 の 部	
固定資産	31,935,151,663	固定負債	7,872,295,482
有形固定資産	30,844,041,417	企業債	6,711,514,584
土地	2,956,972,387	建設改良費等の財源に充てるための企業債	6,711,514,584
建物	2,817,861,306	引当金	1,160,780,898
減価償却累計額	△ 1,958,558,393	退職給付引当金	505,280,898
構築物	59,796,497,272	修繕引当金	655,500,000
減価償却累計額	△ 36,567,655,912	流動負債	1,900,575,792
機械及び装置	13,884,868,162	企業債	643,464,040
減価償却累計額	△ 10,203,959,793	建設改良費等の財源に充てるための企業債	643,464,040
車両運搬具	40,655,996	その他企業債	0
減価償却累計額	△ 38,623,189	未払金	1,192,533,336
工具器具及び備品	169,335,571	前受金	15,244,070
減価償却累計額	△ 156,281,990	引当金	37,411,879
建設仮勘定	102,930,000	賞与等引当金	37,411,879
無形固定資産	87,888,686	その他流動負債	11,922,467
施設利用権	87,888,686	繰延収益	5,308,728,436
投資その他の資産	1,003,221,560	長期前受金	18,778,340,208
出資金	3,000,000	受贈財産評価額	4,406,028,814
その他投資	1,000,221,560	工事負担金	11,908,456,638
流動資産	7,824,559,685	設備負担金	42,213,146
現金・預金	6,614,177,395	消火栓設置負担金	1,080,350,106
未収金	584,175,604	国庫補助金	1,241,127,115
貸倒引当金	△ 1,700,000	一般会計負担金	10,949,256
貯蔵品	34,716,878	その他資本剰余金	89,215,133
前払費用	0	長期前受金収益化累計額	△ 13,469,611,772
前払金	593,139,808	負債合計	15,081,599,710
その他流動資産	50,000	資本金	18,673,218,864
		資本金	18,673,218,864
		剰余金	6,004,892,774
		資本剰余金	1,496,288,100
		受贈財産評価額	20,248,221
		保険差益	66,404
		工事負担金	503,486,314
		設備負担金	144,414,659
		消火栓設置負担金	272,528,270
		施設分担金	131,879,000
		国庫補助金	423,665,232
		利益剰余金	4,508,604,674
		建設改良積立金	3,306,760,000
		当年度未処分利益剰余金	1,201,844,674
		資本合計	24,678,111,638
資産合計	39,759,711,348	負債・資本合計	39,759,711,348

負債は、企業債(借金)に代表されるように、他者に返さなければならない(支払義務がある)お金です。



繰延収益は、資産の取得(水道管の整備等)の際にももらった補助金等、返す必要のないお金です。



資本は、資本金や事業で獲得してきた利益等、返す必要のないお金です。



『お金の使い道』
集めたお金が、「どのような状態」で「どれだけ」あるかが分かります。

『お金の集め方』
企業が資産を獲得するためのお金を、「どうやって」集めたかが分かります。

【図解】キャッシュ・フロー計算書(決算書P12)

☆キャッシュ・フロー計算書とは？

キャッシュ・フロー計算書は、対象年度中の現金・預金の増減とその理由を表す報告書です。

☆キャッシュ・フロー計算書から分かること

損益計算書、貸借対照表からは読み取りにくい、「1年間の現金の流れ」を、その理由と合わせて知ることができます。

☆注目ポイント

①「業務活動によるキャッシュ・フロー」はプラスか？

水道事業を続けるためには、本来の業務活動で得たお金（水道料金）で、水をきれいにするための浄水場や水を配るための水道管の維持管理、更新をしていかなければなりません。そのため、「業務活動によるキャッシュ・フロー」は必ずプラスになる必要があります。

②「投資活動によるキャッシュ・フロー」はどの程度マイナスか？

現在、多くの水道施設が更新期を迎えており、多額の更新費用を必要としています。施設の更新をすれば「投資活動によるキャッシュ・フロー」はマイナスとなりますが、その規模が重要です。

③「財務活動によるキャッシュ・フロー」はプラスかマイナスか？

水道事業では、水道料金で稼いだお金に加えて、お金を借りることで水道施設の更新を行っています。「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、借入と返済によるお金の増減を表し、借入れた金額よりも返す金額の方が多ければマイナスに、借入れた金額が返す金額よりも多ければプラスになります。

④現金を増やすことはできたか？

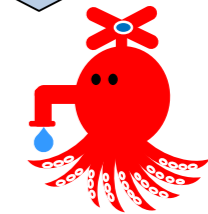
現金が増えているか、減っているかを確認します。その後で各キャッシュ・フローを見ると、なぜそうだったのか？、を知ることができます。

令和5年度のキャッシュ・フロー計算書からは、本来の業務活動で約16.5億円を得て、施設の更新等の投資活動で4千万円使い、借入金の純増等が約7.4億円あったから、結果としてお金が約23.5億円増えたことが分かるんだね。

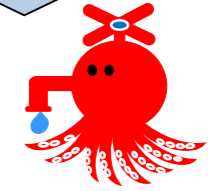


令和5年度明石市水道事業キャッシュ・フロー計算書	
1 業務活動によるキャッシュ・フロー	
(1) 当年度純利益	415,735,506 円
(2) 減価償却費	1,557,051,634 円
(3) 引当金の増減額(△は減少)	24,620,761 円
(4) 長期前受金戻入額	△ 433,569,476 円
(5) 受取利息	△ 366,228 円
(6) 支払利息	113,458,817 円
(7) 固定資産売却益(△は益)	△ 6,531 円
(8) 固定資産除却費	75,663,388 円
(9) 未収金の増減額(△は増加)	22,871,912 円
(10) 貯蔵品の増減額(△は増加)	△ 246,009 円
(11) 前払金の増減額(△は増加)	9,215,400 円
(12) その他流動資産の増減額(△は増加)	150,000 円
(13) 未払金の増減額(△は減少)	△ 9,676,965 円
(14) 前受金の増減額(△は減少)	△ 1,264,863 円
(15) その他流動負債の増減額(△は減少)	△ 10,373,890 円
(16) その他(△は減少)	8,440 円
小計	1,763,271,896 円
(17) 利息の受取額	366,228 円
(18) 利息の支払額	△ 113,458,817 円
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,650,179,307 円
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	
(1) 有形固定資産の取得による支出	△ 1,732,210,513 円
(2) 有形固定資産の売却による収入	1,990,600 円
(3) 有形固定資産の取得による負担金収入	67,343,000 円
(4) 長期資金運用による支出	△ 700,000,000 円
(5) 長期資金運用による収入	2,323,000,000 円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 39,876,913 円
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	
(1) 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	1,325,100,000 円
(2) 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 658,872,205 円
(3) 他会計の出資による収入	71,514,850 円
財務活動によるキャッシュ・フロー	737,742,645 円
資金増加額(又は減少額)	2,348,045,039 円
資金期首残高	4,266,132,356 円
資金期末残高	6,614,177,395 円

「業務活動によるキャッシュ・フロー」は、水道事業本来の営業活動でお金を稼いでいるか？、を表しています。



「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、主に水道施設の更新等、設備投資にどれだけお金を使ったか？、を表しています。



「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、主に借入と返済のどちらを多く行ったか？、を表しています。



7 経営指標の解説及び比較

1 各種指標の意味及び最新の実績(令和5年度決算数値)(決算書P17~18)

番号	指標名	算式			令和3年度	令和4年度	令和5年度 [当年度]
		[当年度数値]					
1	経常収支比率	$\frac{\text{経常収益(千円)}}{\text{経常費用(千円)}}$	$\frac{5,889,826}{5,471,049}$	×100	% 111.93	% 108.58	% 107.65
2	累積欠損金比率	$\frac{\text{当年度未処理欠損金(千円)}}{\text{営業収益-受託工事収益(千円)}}$	$\frac{0}{5,171,686}$	×100	% 0.00	% 0.00	% 0.00
3	流動比率	$\frac{\text{流動資産(千円)}}{\text{流動負債(千円)}}$	$\frac{7,824,560}{1,900,576}$	×100	% 307.61	% 364.25	% 411.69
4	企業債残高対給水収益比	$\frac{\text{企業債現在高合計(千円)}}{\text{給水収益(千円)}}$	$\frac{7,354,979}{4,982,634}$	×100	% 131.94	% 134.59	% 147.61
5	料金回収率	$\frac{\text{供給単価(円)}}{\text{給水原価(円)}}$	$\frac{161.16}{161.75}$	×100	% 104.16	% 100.25	% 99.64
6	供給単価	$\frac{\text{給水収益(千円)}}{\text{年間有収水量(千m}^3\text{)}}$	$\frac{4,982,634}{30,917.41}$		円 160.72	円 160.51	円 161.16
7	給水原価	$\frac{\text{経常費用-(受託工事費+材料及び不用品売却原価+附帯事業費)-長期前受金戻入(千円)}}{\text{年間有収水量(千m}^3\text{)}}$	$\frac{5,000,852}{30,917.41}$		円 154.29	円 160.10	円 161.75
8	施設利用率	$\frac{\text{一日平均配水量(m}^3\text{/日)}}{\text{一日配水能力(m}^3\text{/日)}}$	$\frac{90,430}{132,000}$	×100	% 67.45	% 68.23	% 68.51
9	有収率	$\frac{\text{年間有収水量(千m}^3\text{)}}{\text{年間配水量(千m}^3\text{)}}$	$\frac{30,917.41}{33,097.29}$	×100	% 96.53	% 94.19	% 93.41
10	有形固定資産減価償却率	$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額(千円)}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価(千円)}}$	$\frac{48,925,079}{76,709,218}$	×100	% 62.58	% 63.54	% 63.78
11	管路経年化率	$\frac{\text{法定耐用年数を経過した管路延長(千m)}}{\text{管路延長(千m)}}$	$\frac{344.57}{926.32}$	×100	% 33.34	% 35.27	% 37.20
12	管路更新率	$\frac{\text{当該年度に更新した管路延長(千m)}}{\text{管路延長(千m)}}$	$\frac{4.05}{926.32}$	×100	% 0.56	% 0.54	% 0.44

(注) 参考として記載している類似団体平均の指標(6を除く)については『公営企業に係る経営比較分析表(令和4年度)』に掲載された本市水道事業類似団体(都道府県及び政令指定都市を除く給水人口30万人以上の団体)の平均値を記載しており、6の指標については『令和4年度地方公営企業年鑑』に掲載された都及び指定都市を除く給水人口30万人以上の事業より算出された数値を記載している。

ロ 評価・分析

(経営の健全性・効率性について)

経常収支比率は100%を超えているものの、令和4年度から令和5年度では数値が0.93ポイント下落(悪化)しました。これは、給水収益の減少傾向に加え、円安進行や経済正常化に伴う物価上昇の影響など経常的な経費増加によるものです。

企業債残高対給水収益比率は類似団体平均より低い水準にあります。これは、平成25年度から平成30年度まで新規借入を抑制していたためです。しかし、令和元年度から水道施設の整備・更新の財源として新規借入を再開しているため、企業債残高は増加傾向で推移していく見通しです。

各分析指標は概ね良好な数値で推移していますが、今後は経営環境が厳しくなることが見込まれます。次年度以降においても明石市水道事業中期経営計画の後版(令和3年度~令和8年度)に基づき、長期的に安定した事業運営を図ってまいります。

令和4年度 類似団体平均	指標の意味
% 109.87	給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標である。単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要である。数値が100%未満の場合、単年度の収支が赤字であることを示しているため、経営改善に向けた取組が必要である。
% 0.00	営業収益に対する累積欠損金(営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補てんすることができず、複数年度にわたって累積した損失のこと)の状況を表す指標である。累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが求められる。
% 228.89	短期的な債務に対する支払能力を表す指標である。1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す100%以上であることが必要である。一般的に100%を下回るということは、1年以内に現金化できる資産で、1年以内に支払わなければならない負債を賄えておらず、支払能力を高めるための経営改善を図っていく必要がある。
% 251.26	給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標である。明確な数値基準はないと考えられるが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析するために用いられる。
% 101.93	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標である。料金回収率が100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを意味する。数値が低く、繰出基準に定める事由以外の繰出金によって収入不足を補てんしているような事業体にあつては、適正な料金収入の確保が求められる。
円 165.60	有収水量(年間の料金徴収の対象となった水量)1m ³ あたりについて、どれだけの収益を得ているかを表す指標である。低額である方が水道サービスの観点からは望ましいものの、事業主体ごとに事業環境が異なるため、明確な数値基準はないと考えられるが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析するために用いられる。
円 162.47	有収水量1m ³ あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標である。事業体の規模や地理的条件及び水源(浄水方法含む)等の違いにより大きく差が生じるため、明確な数値基準はないと考えられるが、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析するために用いられる。
% 63.81	一日配水能力に対する一日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標である。明確な数値基準はないと考えられるが、一般的には高い数値であることが望まれる。経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握するために用いられる。
% 91.76	供給した配水量に対する料金徴収の対象となった水量の割合であり、100%に近ければ近いほど施設の稼働状況が収益に反映されていると言える。数値が低い場合は、水道施設や給水装置を通して給水される水量が収益に結びついていないため、漏水やメーター不感等といった原因を特定し、その対策を講じる必要がある。
% 52.59	有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度を示している。明確な数値基準はないと考えられるが、一般的に、数値が高いほど、法定耐用年数に近い資産が多いことを示しており、将来の施設の更新等の必要性を推測することができる。
% 27.51	法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標で、管路の老朽化度を示している。明確な数値基準はないと考えられるが、一般的に、数値が高い場合は、法定耐用年数を経過した管路を多く保有しており、管路の更新等の必要性を推測することができる。
% 0.78	当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、管路の更新ペースや状況を把握できる。明確な数値基準はないと考えられるが、数値が2.5%の場合、すべての管路を更新するのに40年かかる更新ペースであることが把握できる。

(注) 表中の各数値は、適宜、それぞれの数値ごとに表示単位未満を四捨五入するなど、端数処理を行っているため、割合や内訳、集計等の結果が一致しない場合がある。

(老朽化の状況について)

有形固定資産減価償却率及び管路経年化率は類似団体より高い水準で推移しており、また管路更新率は類似団体よりも低い水準で推移おり、いずれも好ましくない状態と言えます。

しかしながら、現在、管路の更新延長を伸ばし更新率を上げるよりも、安全度の向上を重視し、重要管路の更新を優先している結果であり、基幹となる水道管路の漏水は、近年極めて少ない状況を維持し続けています。

今後の見通しとして、既に整備された管路の多くが高度経済成長期以降に市内各所で実施された大規模開発に伴うものであり、これら管路の経年化速度が更新速度を上回ることが予測されるため、有形固定資産減価償却率及び管路経年化率の上昇傾向が続くものと考えています。

2 経営比較分析表(総務省作成・公表資料の引用)

経営比較分析表 (令和4年度決算)

兵庫県 明石市

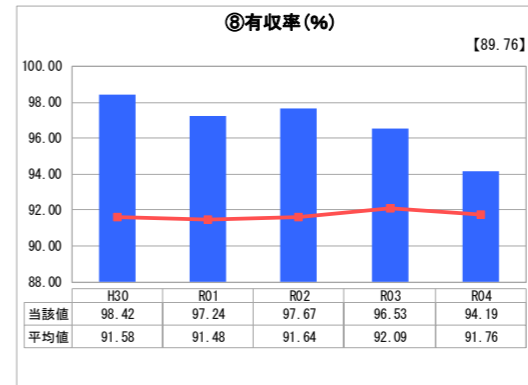
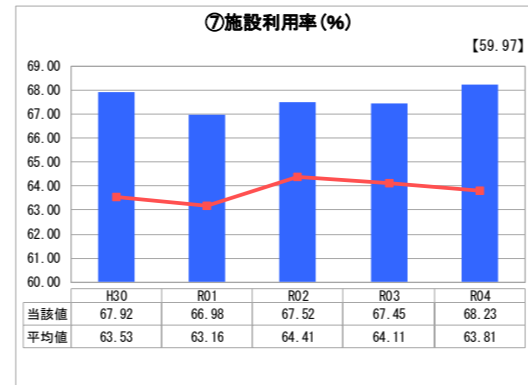
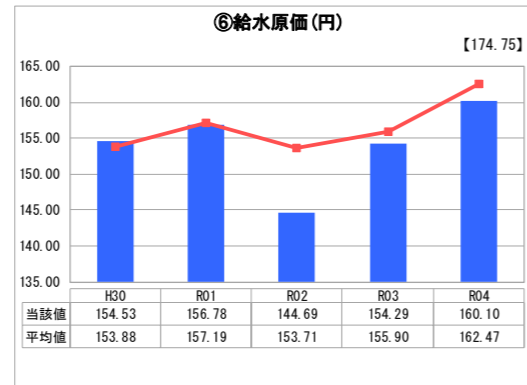
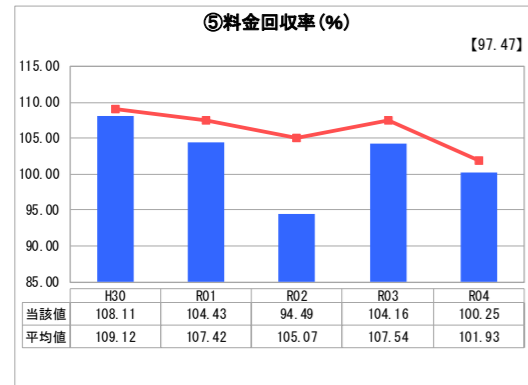
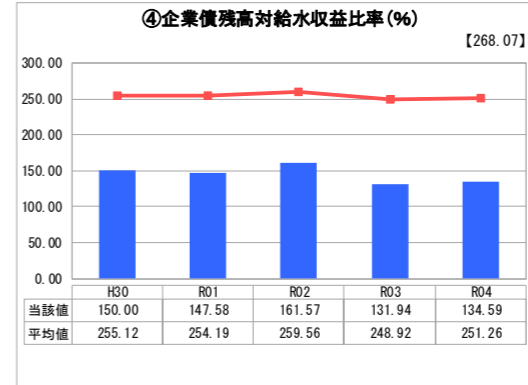
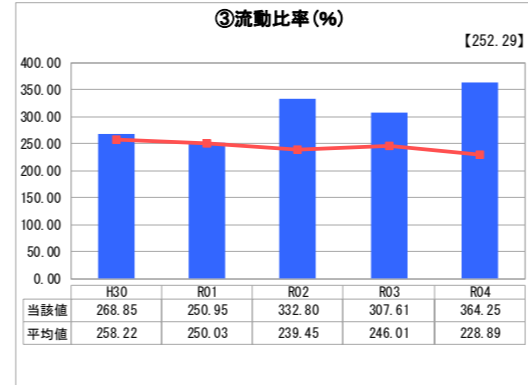
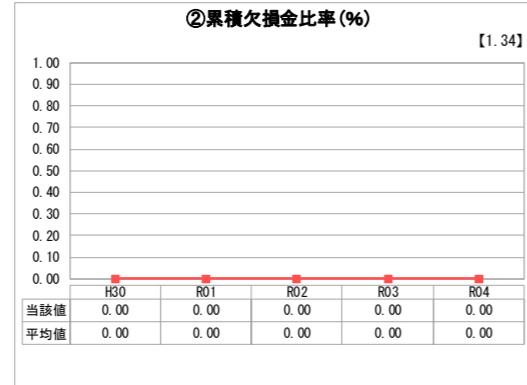
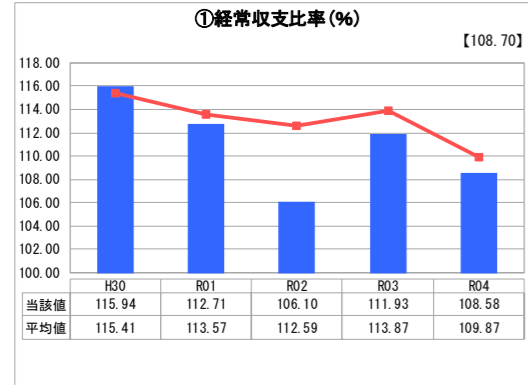
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	77.54	99.99	2,541	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
305,404	49.42	6,179.77
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
305,842	49.93	6,125.42

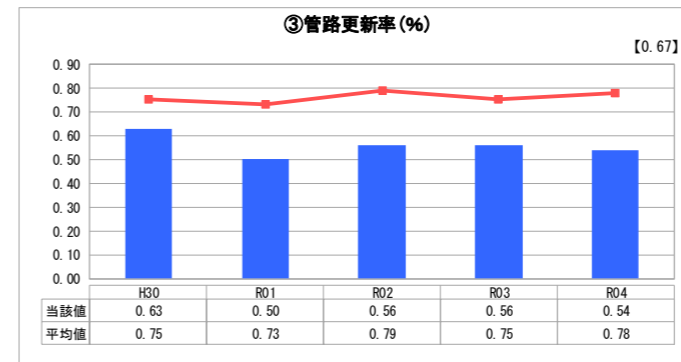
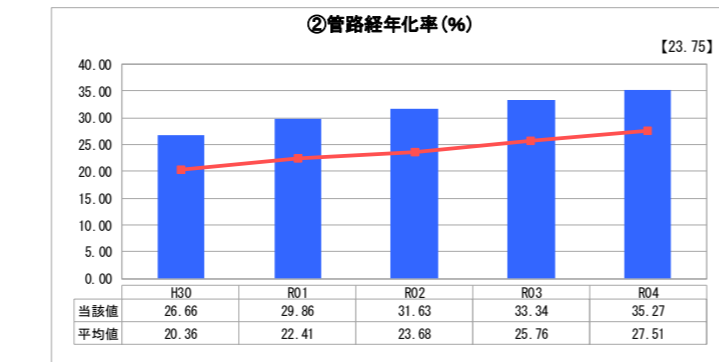
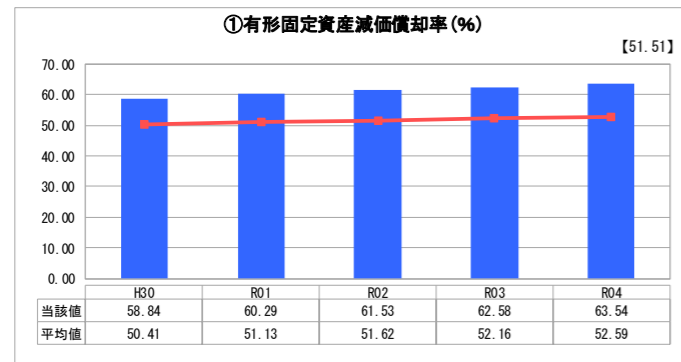
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、100%を超えているものの、令和3年度から令和4年度では数値が3.35ポイント下落(悪化)した。これは、節水意識の高揚や、設備機器の技術革新、生活様式の変化など(以下、「節水意識の高揚等」とする。)による給水収益の減収傾向に加え、物価高騰に伴う電気料金など経常的な経費増加による。

② 流動比率は、令和3年度から令和4年度では数値が56.64ポイント増加した。これは、企業債の借入額の増加などにより現金・預金が増加したことによる。

③ 企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値より低い水準にあるが、これは、平成25年度から平成30年度まで新規借入を抑制していたためである。しかし、令和元年度から水道施設の整備・更新の財源として新規借入を再開しているため、企業債残高は増加傾向で推移していく見通しである。

④ 料金回収率は、100%を上回っているものの、令和3年度よりも3.91ポイント減少した。この減少は給水原価の増加(⑥参照)による。

⑤ 給水原価は、令和3年度から令和4年度では数値が5.81円増加した。この増加は、節水意識の高揚等による年間有収水量の減少傾向に加え、物価高騰に伴う電気料金など経常的な経費増加による。

⑥ 施設利用率は、類似団体平均値と比較して良好であるが、給水需要の減少に合わせて施設のダウンサイジング等を行い、さらなる効率的な施設利用を目指す必要がある。

⑦ 有収率は、類似団体平均値と比較して良好な状態であるが、令和2年度から毎年低下する傾向にある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、償却対象資産の減価償却が進んでいるため、年々上昇している。類似団体平均値と比較して資産の老朽化が進んでいる状況である。

② 管路経年化率は、年々上昇しており、類似団体平均値と比較して管路の老朽化が進んでいる状況である。

③ 管路更新率は、類似団体平均値よりも低い水準で推移している。これは現在、管路の更新延長を伸ばして更新率を上げるよりも、管路の重要性を考慮し、優先順位を決めて更新することにより安全度を向上させる方針としている結果であり、基幹管路の漏水は、近年少ない状況維持できている。

なお、近年では、高度経済成長期後半に大規模な住宅開発に伴い布設された大量の管路が順次経年管となり、管路の経年化速度が更新速度を上回るため、②管路経年化率の上昇傾向は続くことが予想される。

全体総括

令和4年度は、経営の健全性・効率性を示す①、④及び⑤の経営指標が令和3年度と比べ悪化した。これらは節水意識の高揚等による給水収益の減収傾向に加え、世界情勢に端を発した物価高騰の影響による。また老朽化の状況を示す各指標により、施設の老朽化が進行していることが確認された。

令和5年度の給水収益の見通しは、水道利用者全体の水需要減少傾向が継続していることを考慮すると、コロナ禍以前の水準を下回るものと予測している。

今後については、水道法の趣旨を踏まえた施設の強靱化を図るとともに、令和3年3月に策定した中期経営計画に基づく業務効率化、経営合理化の取り組みを推し進めることにより費用の削減を行うこともとより、適切な給水収益の確保を図ることで、引き続き健全な事業運営と水道サービスの維持向上に努めていく。

よくわかる決算書 用語解説

「よくわかる決算書」に出てきた専門用語を、
分かりやすく解説するよ。



か

勘定・・・・・・・・・・取引が行われるつど、資産・負債・資本・収益・費用の5つの要素を用いて記録する。それらの要素を勘定という。
また、例えば資産勘定の中でも、現金や普通預金、建物など中身は細かく分けられる。

キャッシュ・フロー計算書・・・・・・・・現金の増減に関する情報を表示する報告書のこと。(P29 参照)

給水原価・・・・・・・・1年間における水道水の製造にかかる全体費用を、1年間に水道使用者が使用した全体水量で割って求める、水道水1 m^3 あたりの平均費用。
水道水1 m^3 あたりで、どれだけの費用がかかっているかを表す指標。

供給単価・・・・・・・・1年間における水道料金収入の全体金額を、1年間に水道使用者が使用した全体水量で割って求める、水道水1 m^3 あたりの平均単価。
水道水1 m^3 あたりで、いくらの収入が得られるかを表す指標。

減価償却費・・・・・・・・使用や時間の経過に伴って、経済的な価値（将来収益を生み出すことのできる力）が減少していく建物や設備などの固定資産について、それを使用する期間（耐用年数）にわたって、毎年度徐々に費用化すること。

公営企業会計・・・・・・・・官公庁特有の方式である「一般会計」に対して、民間企業と似た方式をとる会計制度のこと。下記の2つの特徴がある。

① 発生主義

現金取引の有無に関わらず、経済活動の発生を記帳のタイミングと考える。

② 複式簿記

一般企業（株式会社など）と同様の記帳方法。

上記の特徴により、正確な経済状態の把握が可能になるメリットがある。

さ

資本的収支・・・・・・・・・・収益や費用には関係ない、資本や負債に関わるお金の流れ。例えば、資産となりうる施設（建物など）の整備や、企業債の元金償還などが、資本的収支に含まれる。

資本的収支は、公益企業会計では、4条（収支）と呼ばれている。

収益的収支・・・・・・・・・・経営活動に伴って発生する全ての収益と費用を表す。

水道事業でいうと、水道料金や維持管理費などがこれに含まれる。

収益的収支は、公益企業会計では、3条（収支）と呼ばれている。

資金・・・・・・・・・・公営企業では、現金と預金を合算した現金相当額のこと。

損益計算書・・・・・・・・・・ある一定期間における企業の経営成績を表示する報告書のこと。（P27 参照）

た

貸借対照表・・・・・・・・・・年度末時点における企業の財政状況を表示する報告書のこと。（P28 参照）

長期前受金戻入・・・・・・・・・・財源を年数ごとに少しずつ収益にしていく仕組みのこと。

施設等を整備するときには、その費用の一部を、国などから補助金としてもらったり、それを使用する方など関係者に負担していただいたりしている。

これらは施設を整備する年にまとめてもらうが、損益計算書には“1年間にかけた費用と収益を載せる”という決まりがあるため、減価償却費と同様に、その施設が使える年数に合わせて、それぞれの年に収益を分ける必要がある。

は

引当金・・・・・・・・・・将来発生する費用や損失に備えるために、あらかじめ準備しておくもの。貸倒引当金や賞与引当金など、様々な勘定科目がある。

負債・・・・・・・・・・企業債や未払金等の借金のようなもの。

返さなければならない期限が1年未満か1年以上かによって、流動負債と固定負債に分けられる。

負担金(収入)・・・例えば兵庫県や明石市下水道事業などの事業者から水道管工事の依頼を受けた際、事業者に当該工事費用の負担を求めるもの。

補てん財源・・・今までに生じた利益や、費用化されるが当年度現金を支払う必要がない減価償却費などが「補てん財源」として管理される。
資本的収入よりも資本的支出の方が大きい場合は、この補てん財源で補てんしなければならない。
その理由は、資金的な裏付け（現金・預金残高のこと）があることを確認し、企業がその事業規模を逸脱して拡大・拡張していないかを確認するためである。

ら

流動資産・・・1年以内など、比較的短い期間で現金にすることができる資産のこと。
現金や預金、未収金などがある。

流動負債・・・企業の本業に関わって生じた支払債務や、1年以内に支払わなければならない債務のこと。

(以上となります。)

2024年(令和6年)10月

明石市水道局(経営担当) 財務係

〒673-8686 明石市中崎1丁目5番1号

TEL; 078-918-5084(直通)

FAX; 078-911-4066

Mail; meisuikei@city.akashi.lg.jp